

## あしなが学生募金とは



〈あしなが学生募金事務局とは〉

病気・災害・自死(自殺)によって親を亡くした子どもたちや、障がいなどで親が働けない家庭の子どもたちの奨学金とアフリカで同じように親を亡くした子どもたちの高等教育支援の奨学金を毎年春・秋に街頭募金を実施することで支えている学生団体です。

〈あしなが学生募金とは〉

あしなが学生募金は51年の歴史を持つ遺児支援の募金運動です。毎年春と秋に4日間、全国200か所で実施し、毎回のべ1万人のボランティアスタッフの方々に支えられながら、年間約2億5千万円のご寄付をいただいております。

交通遺児支援から始まったこの運動は、時代と共に支援の輪を災害遺児、病気遺児、自死遺児、親が障がいを持つ子どもたちへと広げ、今秋からはアフリカのサブサハラ49か国の遺児たちも支援いたします。

この51年間でおおよそ遺児約11万人の進学を支援し支えた“あしなが運動”の原動力は、みなさま「ボランティアスタッフ」の情熱と行動です。



〈あしなが学生募金事務局が目指すもの〉

私たちは、遺児の経済的支援をはじめ、すべての人々が生まれた環境・地域・時代を問わず自他共の幸せを考える「共生できる社会」を目指して活動しています。古くは交通遺児(現在は、支援先としていない)の救済から始まりました。そこから病気・災害・自死(自殺)によって親を失った

子どもたち、親御さんが障がいを持ち働くことが困難な子どもたち、アフリカ遺児の高等教育支援まで支援を広げてきました。

そこには、必ず声をあげられない誰かがいました。交通事故で大切な人をなくしても、その損害賠償はわずかばかりだった時代、人の命の重さを声にできない人がいました。病気で大切な人を失っても、残された家族の生活の困窮は自己責任で済ませているのでしょうか。雇用の形が大きく変わり、自ら死を選んでしまう人もいました。それも自己責任なのでしょうか。

社会が変化していくことは常ではありますが、必ず新しい時代の中で制度狭間に苦しみ残された家族たちの道が閉ざされて行ってしまう現状があります。私たちはそうした遺児・遺児家庭の苦しみ声を代弁することで社会に対して提言を繰り返してきています。ただ、私たちが実現したいのは、すべての人々が生まれた環境・地域・時代を問わず、自他共の幸せを考える「共生できる社会」です。これは私たちがビジョンとして掲げるものです。私たちが取り組んでいくのは、「遺児問題」であることは確かです。しかし、それだけにとどまらず、誰もが声をあげて、誰もがそれぞれの幸せを尊重しあえるそんな社会の実現のために、声をあげられずに困っている人たちの声に耳を傾け、発信し続けていくことに意味があると思っています。そうすることで1人でも多くの子どもたちが子どもたちらしく育つことを社会全体で後押しできると信じています。

